

1. 令和5年度全国学力・学習状況調査の概要について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6年生
 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第9年生

(3) 調査の内容

●教科に関する調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6年生：国語・算数
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第9年生：国語・数学・英語

●質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査

●学校にする調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査結果の取り扱いに関する配慮事項

- 本調査の目的及び調査結果が、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにすること。

2. 八尾市の調査結果について

(1) 調査を行った学校数と児童生徒数

- 市立小学校27校,義務教育学校前期課程:第6学年(国語2036名 算数2040名)
- 市立中学校14校,義務教育学校後期課程:第3学年,第9学年
 (国語1908名 数学1915名 英語1916名 英語(話すこと)1695名)

(2) 児童生徒への個人調査結果票の返却日

返却基準日 令和5年9月1日(金)～令和5年9月8日(金)

(3) 学力に関する調査結果について

<小学校、義務教育学校前期課程の平均正答数と正答率比較 公立小学校集計値>

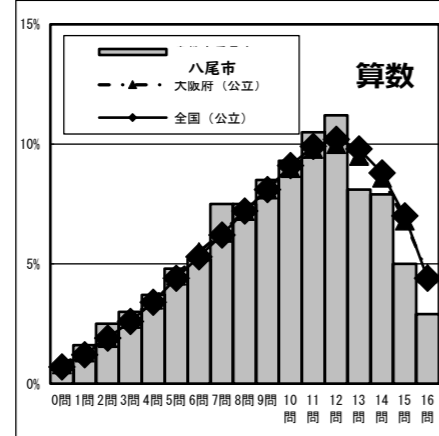
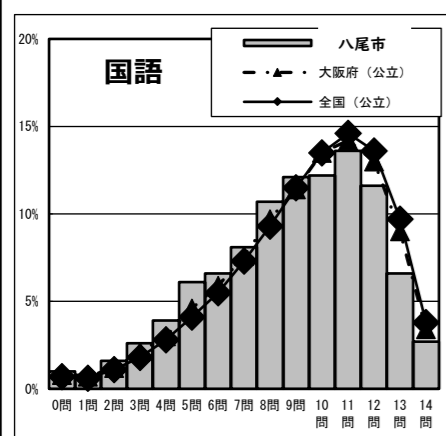
	平均正答数			平均正答率(%)			対全国比	
	八尾市	大阪府	全国	八尾市	大阪府	全国	R5	R4
国語	8.8/14	9.2/14	9.4/14	63.0	66.0	67.2	0.94	0.95
算数	9.6/16	9.9/16	10.0/16	59.8	62.1	62.5	0.96	0.95

<中学校、義務教育学校後期課程の平均正答数と正答率比較 公立中学校集計値>

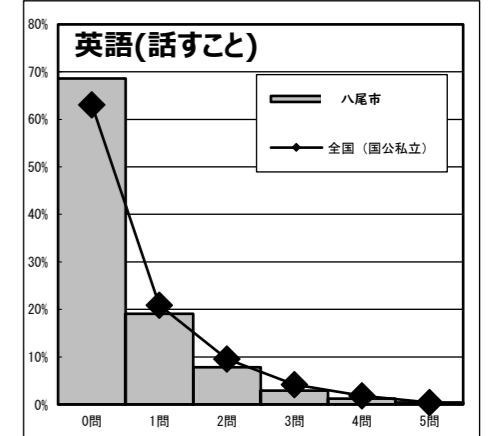
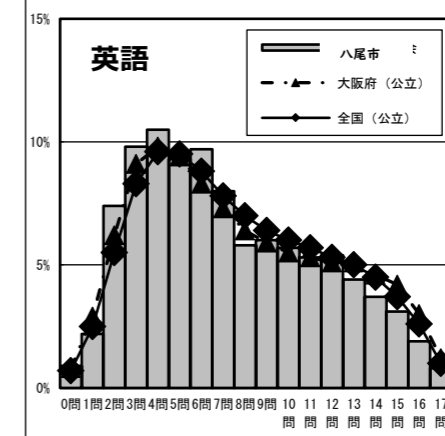
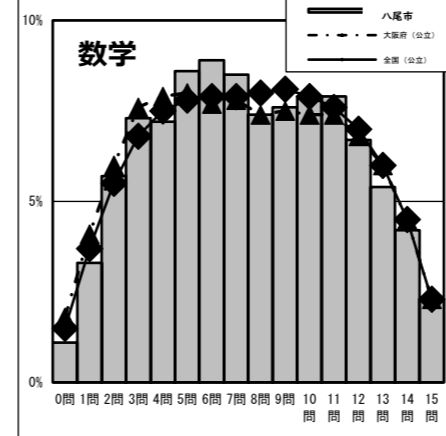
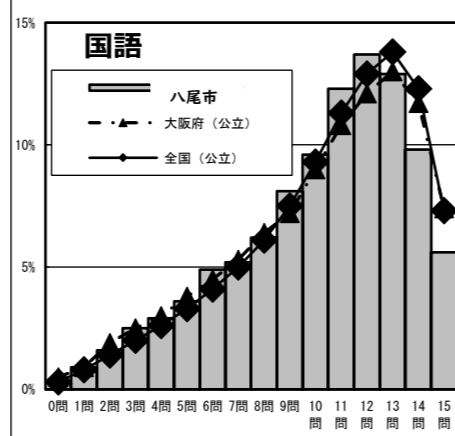
	平均正答数			平均正答率(%)			対全国比	
	八尾市	大阪府	全国	八尾市	大阪府	全国	R5	R4
国語	10.1/15	10.2/15	10.5/15	67.6	68.0	69.8	0.97	0.97
数学	7.6/15	7.5/14	7.6/14	50.6	49.9	51.0	0.99	1.00
英語	7.3/17	7.7/17	7.7/17	42.9	45.3	45.6	0.94	0.98 (H31)
英語(話すこと)	0.5/5	-	0.6/5	10.0	-	12.4	0.81	-

3. 結果分析について

■小学校及び義務教育学校前期課程



■中学校及び義務教育学校後期課程



○漢字を文中で正しく使うことがある程度できている。
 ◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができている。
 ◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみるできている。
 ◆観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることに課題がある。

○自然数の意味や、反比例の意味を理解することができている。
 ◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができている。
 ◆社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることに課題がある。

○社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができている。
 ◆疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能が身につけていないという課題がある。

令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙の調査結果について ①

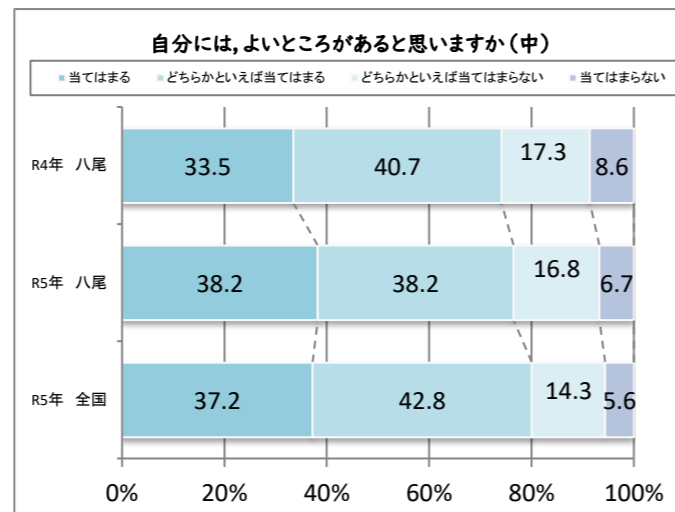
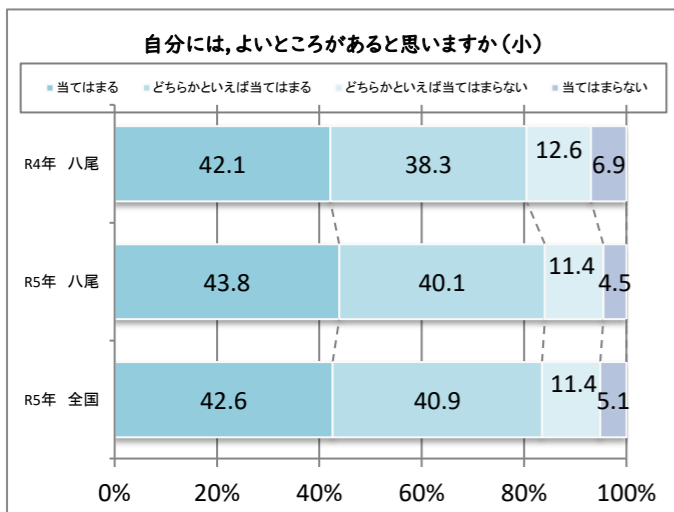
豊かな人間性・地域との関わりについて

- 小・中学校ともに「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた子どもの割合が増加した。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた子どもの割合は、小学校では増加し、中学校では微減した。
- 小・中学校ともに「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた子どもの割合が大きく増加した。
- ◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた子どもの割合は、小学校では微増し、中学校では微減した。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため学校行事の中止や規模縮小、部活動の制限など、子どもたちの学校生活に多大な影響があったが、日常を取り戻す中で「豊かな人間性や地域との関わり」について肯定的回答割合が増加し改善が見られた。5類感染症移行に伴い、地域等との出会いの機会や経験を積み重ねるようなキャリア教育の推進が必要。

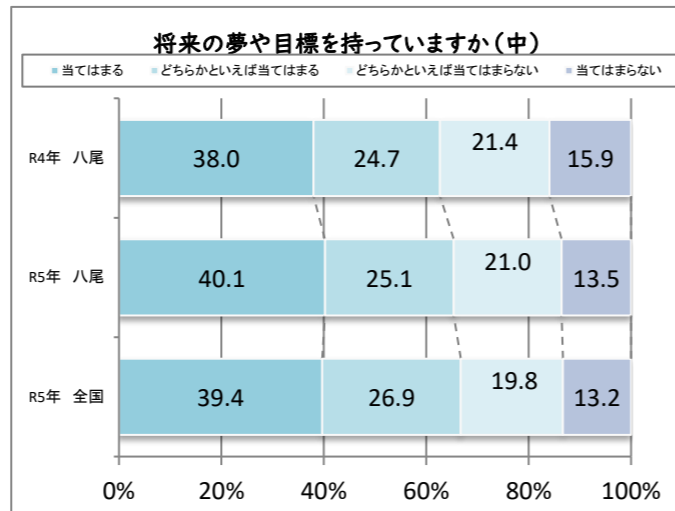
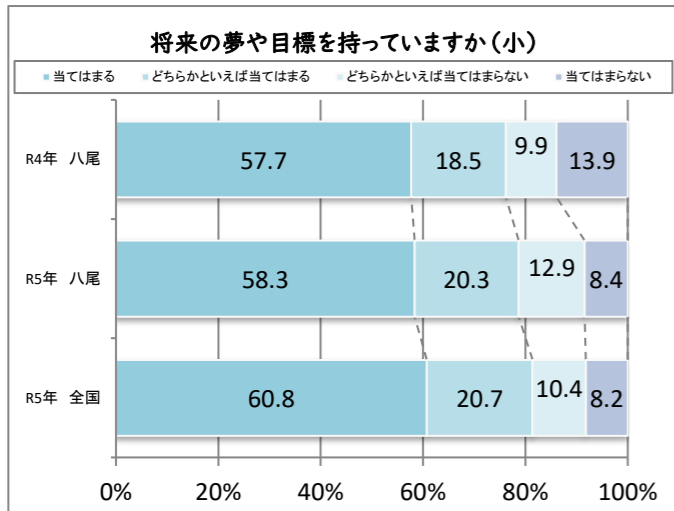
《調査について》

※グラフ内の数値は、無回答はデータに反映していないため、合計値は100にならない場合がある。
※小学校59調査設問、中学校72調査設問のうち、市として重点を置いている項目を抜粋して記載している。

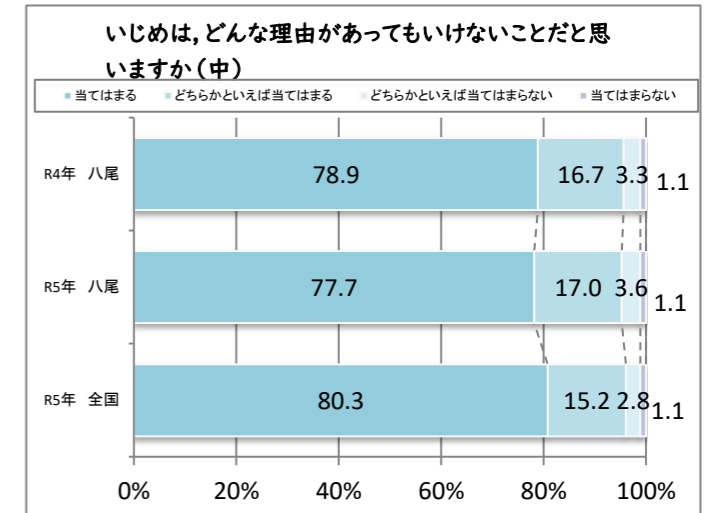
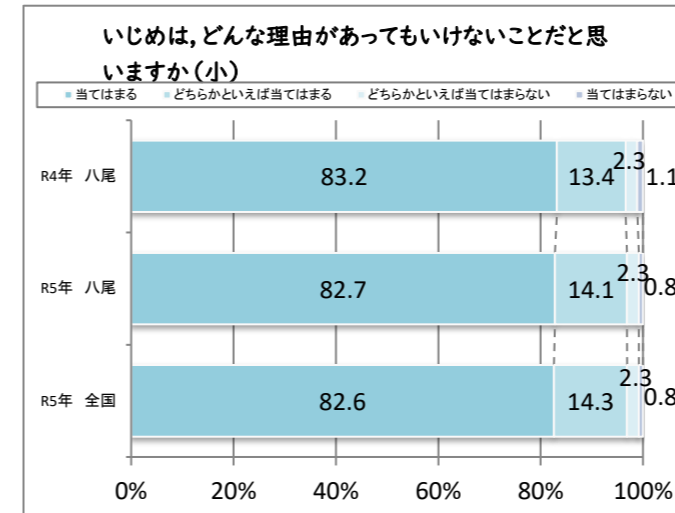
自己肯定感について



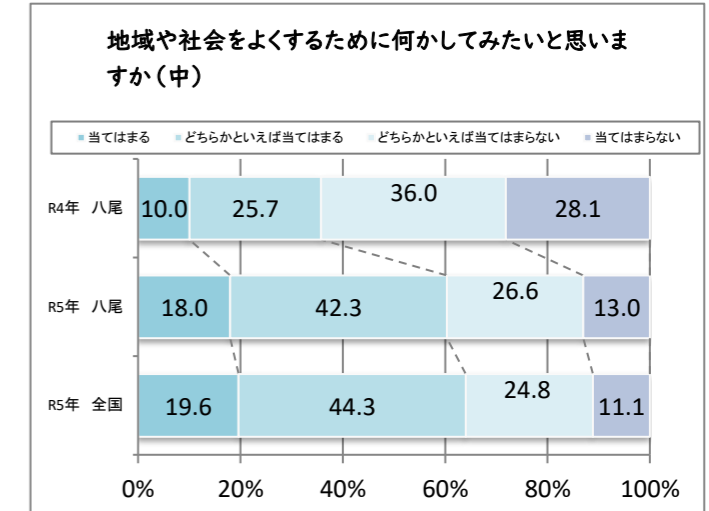
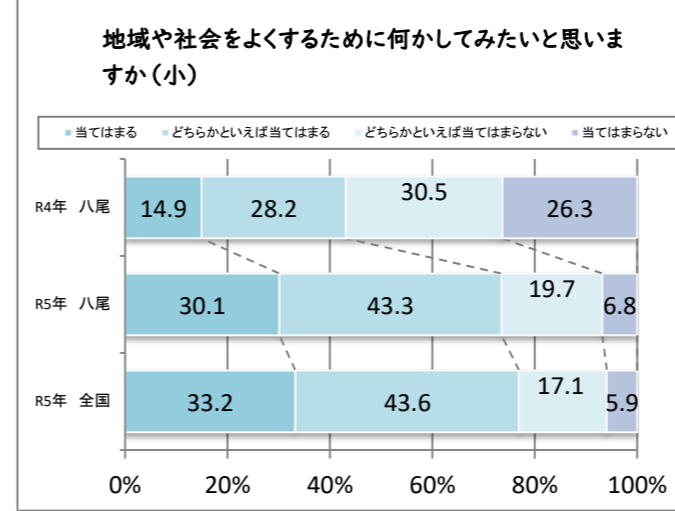
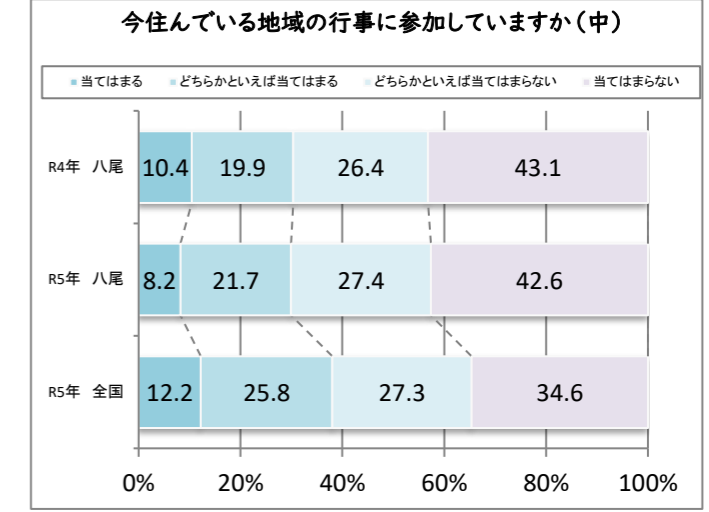
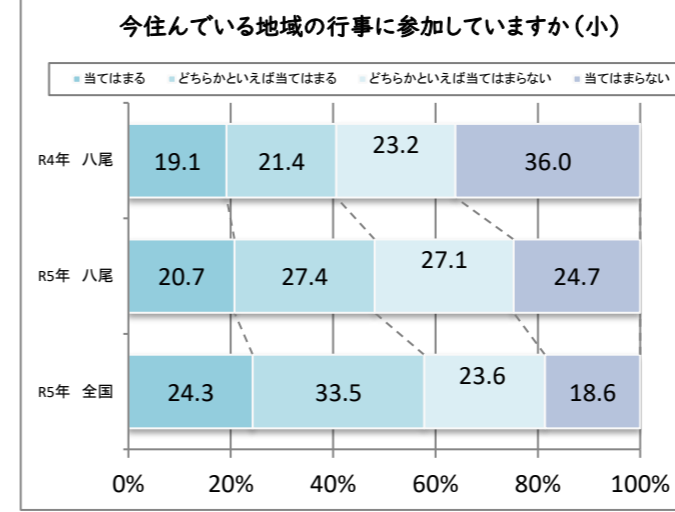
将来の夢について



いじめについて



地域との関わりについて

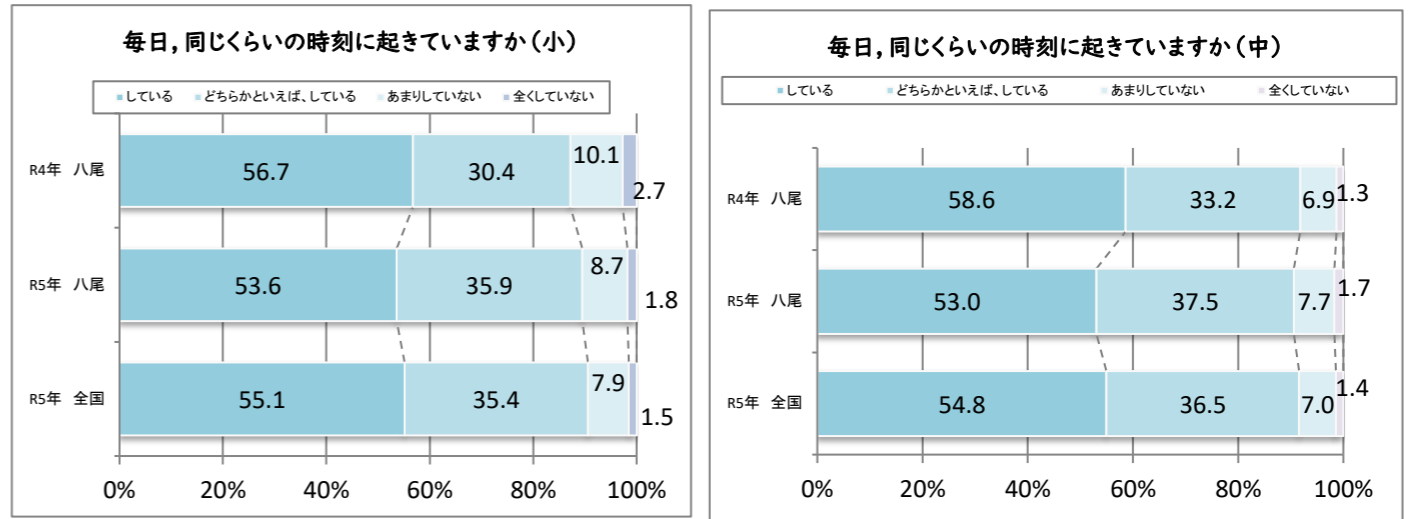


令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙の調査結果について ②

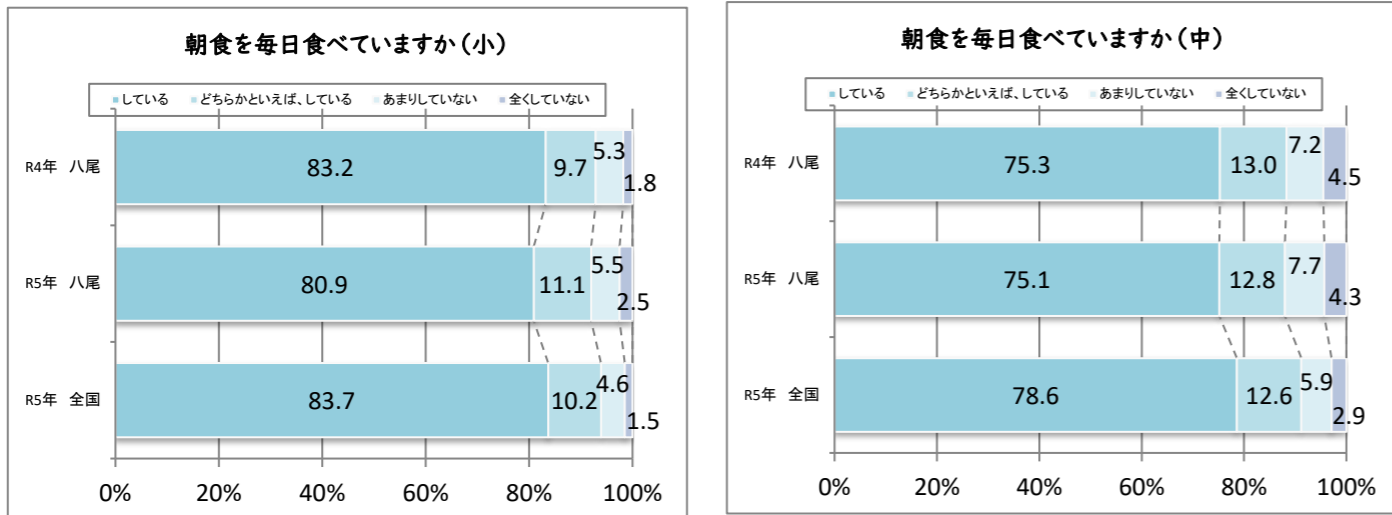
基本的な生活習慣・読書時間について

- 小学校では、「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた子どもの割合が増加した。
- 小・中学校ともに「学校での授業時間以外に、読書を全くしない」と答えた子どもの割合が減少した。
- ◆小・中学校ともに「朝食を毎日食べています」と答えた子どもの割合が減少した。
- ◆中学校では、「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた子どもの割合が減少した。

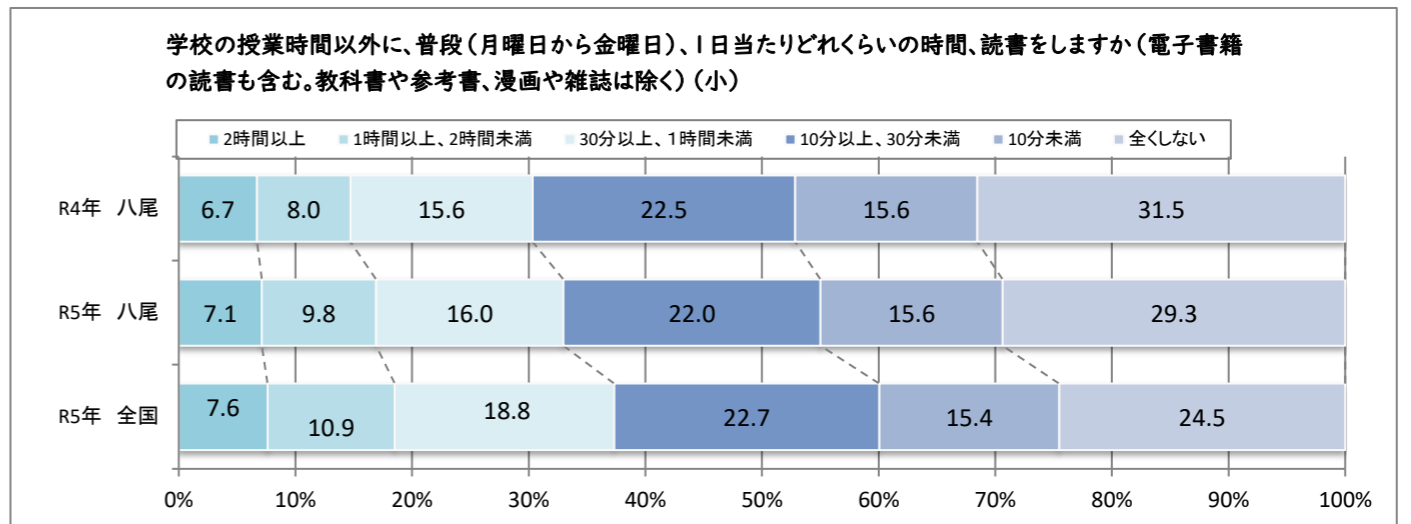
起床時刻について



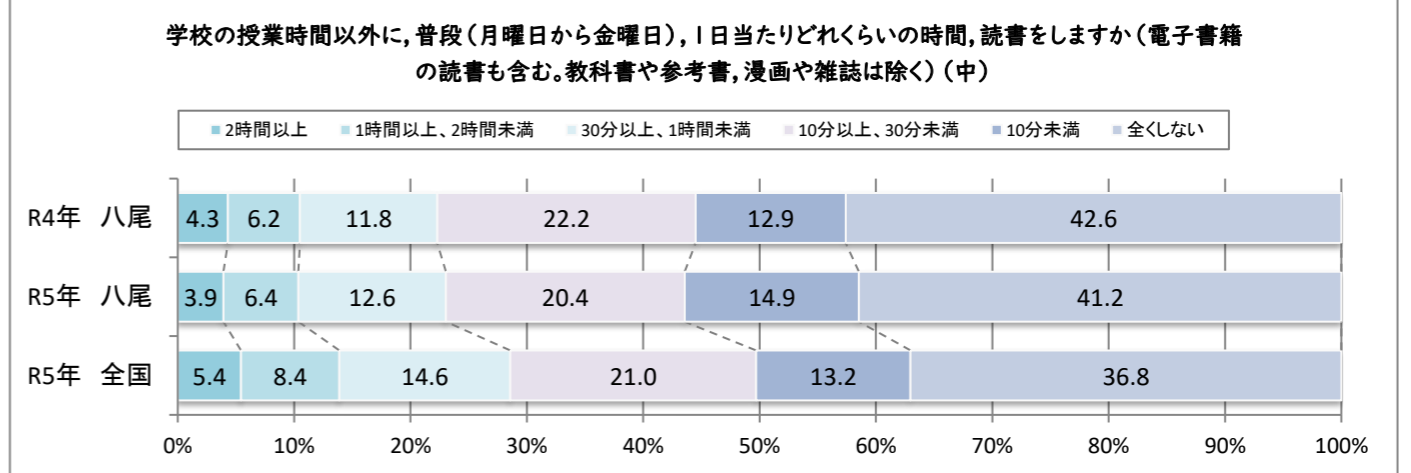
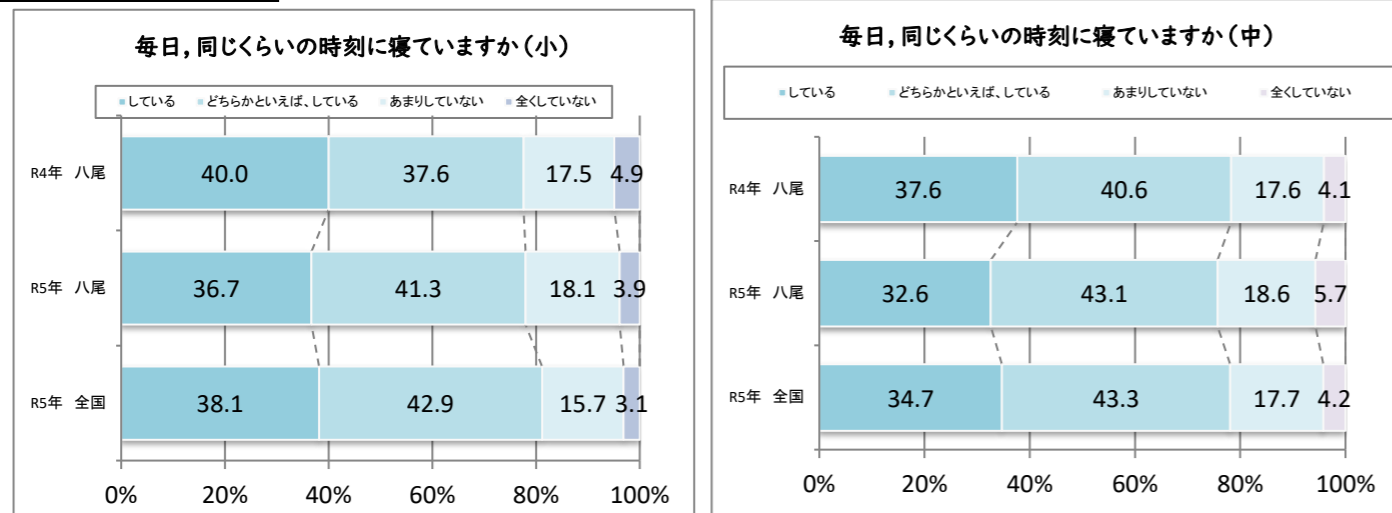
朝食について



読書時間について



就寝時刻について

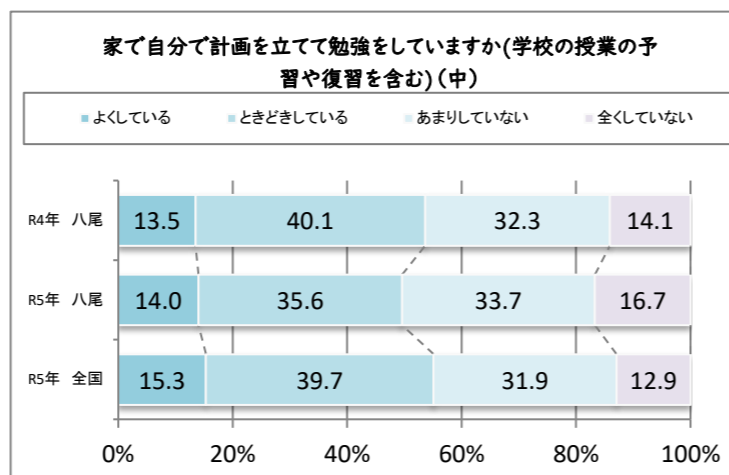
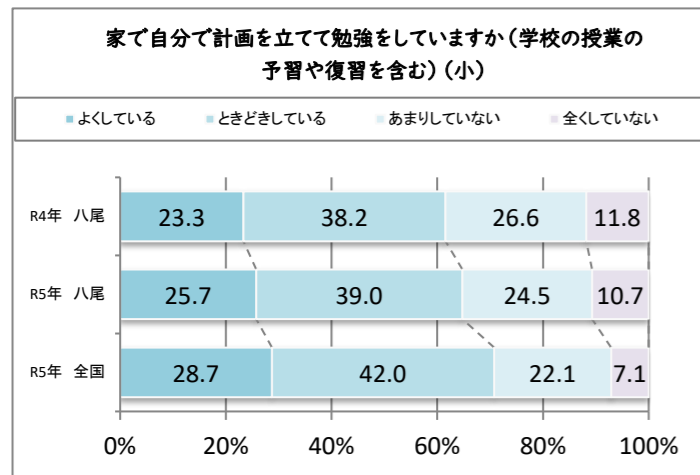


令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙の調査結果について ③

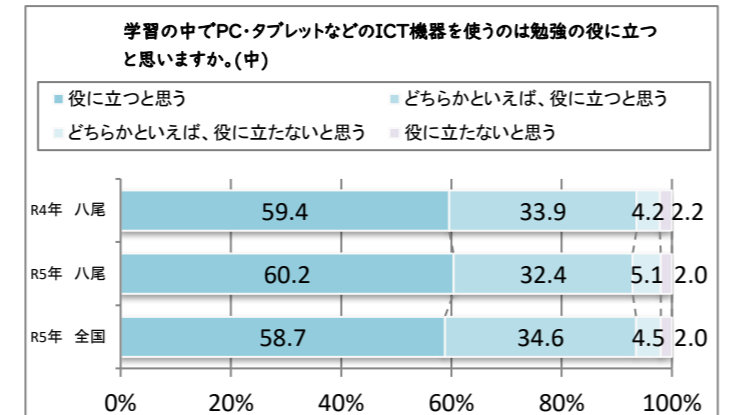
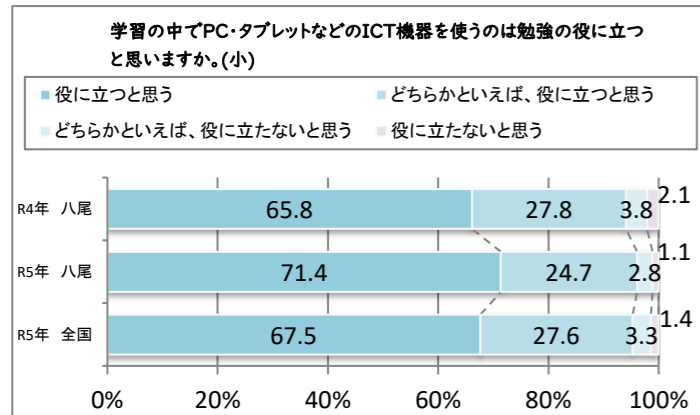
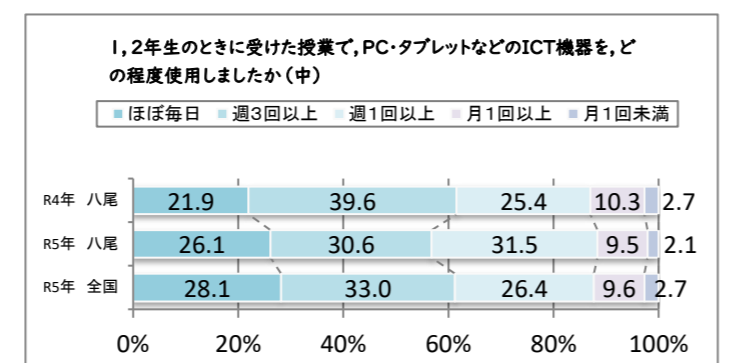
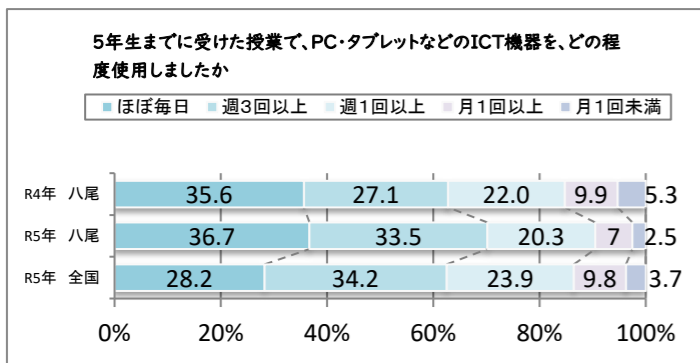
自学自習・ICT機器の活用・授業について

- 小学校では「自学自習」「ICT機器の活用」について、肯定的回答率の割合が増加した。
- 小・中学校ともに、「授業における主体性、発表の工夫、話し合う活動」について肯定的回答率の割合が増加した。
- ◆中学校では「自学自習」「ICT機器の活用」について、肯定的回答率の割合が減少した。
- 効果的な家庭学習の方法・やり方についての啓発が今後も必要である。また、ICT機器の活用について、ただ使えばよいではなく、効果的な活用ができる活動を充実させていく必要がある。

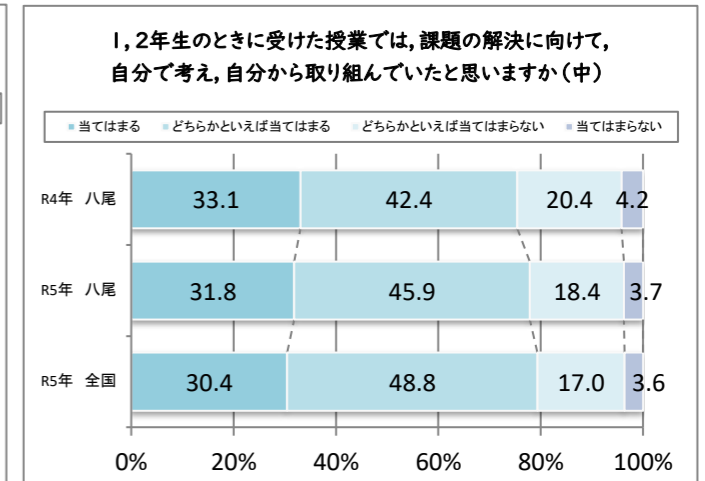
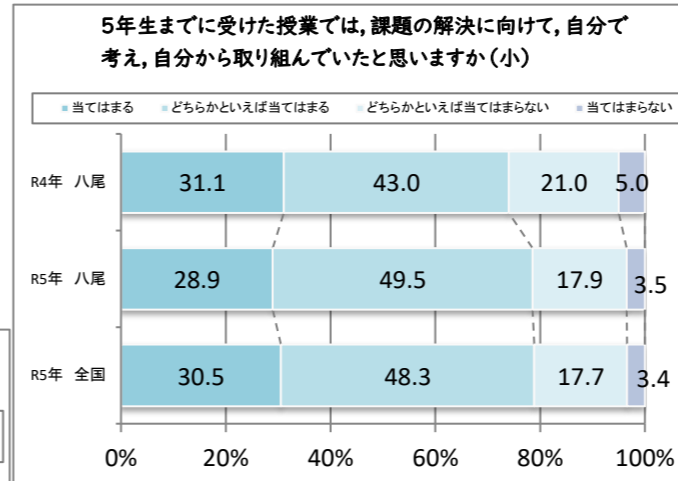
自学自習について



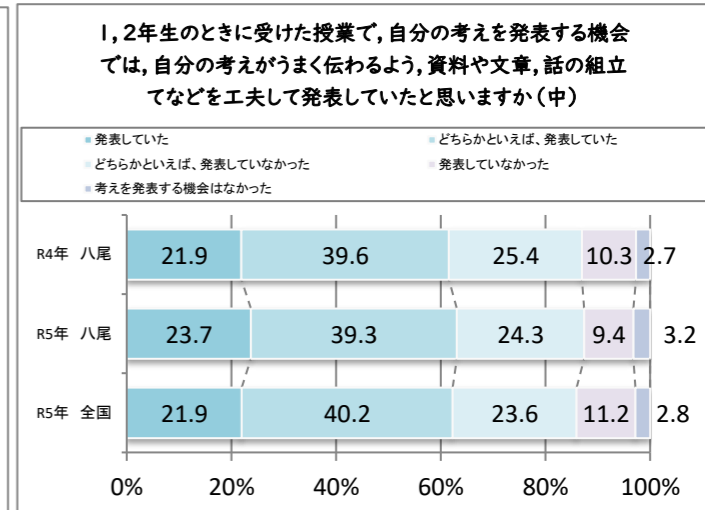
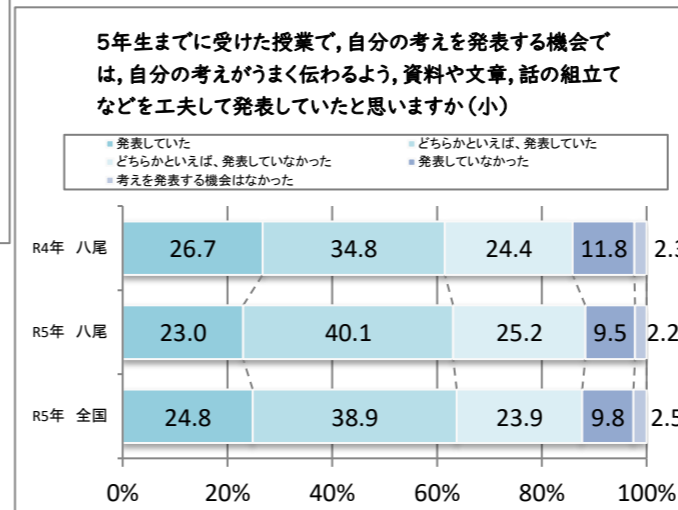
ICT機器の活用について



授業における主体性について



授業における発表の工夫等について



授業における話し合う活動について

